

(案)

柏市第五次総合計画 基本計画

※第2章 分野別計画 (3) 経済・活力 (4) 地域のちから

各ページに事業費についての記載がございますが、事業内容を把握する作業過程の中での事業費となっております。あくまでも想定となっており、また、数字をお伝えすることが難しいものは空欄としております。確定されたものではございませんので、ご留意いただけますようお願い申し上げます。

(3)経済・活力

商業・工業・農業などの産業の活性化は、税収の確保や安定的な雇用を創出するだけでなく、都市の魅力を高めるとともに人々の交流、そして定住を促し、地域経済の持続可能な発展を支える重要な役割を担っています。事業者が地域に根ざし、安心して事業活動が行えるよう環境整備を進めるとともに、本市の強みや特徴を生かした付加価値の高い産業を振興します。

また、柏駅周辺の賑わい、北部地域の新しいまちづくり、手賀沼周辺の豊かな自然環境などを利活用しながら、足腰の強い経済基盤と活力ある街をつくります。

※この導入部分は、総合計画審議会での委員の皆様の意見等を参考にしながら、分野別の方向性や優先順位の考え方を盛り込む予定です。

図表1 施策体系(経済・活力)

施策	取組	事業
1. 中心市街地に迫る危機への対策	新たな魅力を持った中心市街地の実現	エリアマネジメントの推進 人に優しいまちへの基盤整備 中心市街地における再開発事業の推進 中心市街地活性化事業の推進
	交通結節機能の強化	柏駅舎改修と機能強化の推進 柏駅前広場の機能充実化
	柏の個性づくりの推進	にぎわいを創出するイベントの開催 駅周辺個性化の推進支援
	人が集まる場の創出	広域交流スペースの検討 柏駅周辺の空間の有効活用 街なか空地の活用
2. 未来につながる北部地域の魅力向上	北部地域のブランド化	エリアマネジメントの推進 柏の葉ブランド確立の推進
	計画的なまちづくりの推進	まちづくり検討協議会の開催 区画整理除外区域のインフラ整備 市有地の有効活用
3. 手賀沼を中心とする南部地域の活性化	手賀沼を活用した交流の推進	スポーツ、自然、体験をキーワードにした観光推進 水辺環境を活かした空間の形成 手賀沼流域関係団体との連携強化
4. 産業の活性化	戦略的な企業誘致活動	付加価値の高い産業の誘致 産業用地関連情報の発信
	産業支援の推進	産業間連携コーディネーターの育成 創業支援の推進 企業ニーズに合わせた融資制度の導入
	きめ細やかな就業支援	関係機関との連携強化
5. 地域特性を活かした農業の活性化	農業経営力の強化	農産物の高付加価値化の支援 農業経営の拡大・効率化支援 農業・農地を担う人材の確保・育成 柏農産物産地化の推進 地域流通システムの検討
	農業の魅力向上	農を活かした交流拠点の充実 柏農産物の購入機会の拡大 柏農業の情報発信の強化 農業体験等を通じた農業理解の促進
	農地の生産性の向上	農地利用の集積促進事業の推進 耕作放棄地の解消と農地利用の促進 土地改良施設等の維持管理支援 農業生産工程管理(GAP)の推進 農業災害・家畜伝染病等への対策の推進
6. 市内各地域の活性化	身近な商業等の活性化	大学や地域住民等と連携した地域経済振興 個店などの支援 商業・工業・農業の活性化を担う人材の育成及び支援
7. 市場の活性化	開かれた市場の推進	市民等の受け入れ体制の強化
	取扱高の向上	市場で取り扱う商品等の魅力づくり

①当該施策の現状分析（課題把握）

- ・ 駅周辺の顔でもある中心市街地に立地する面積 1,000 m²以上の大型店は、昭和 30～40 年代に立地したものが多く、近年は平成 21 年に高島屋新館がオープンしたのみで、小売業の売場面積は減少傾向にあります。
- ・ 柏駅の乗車人員数や年間小売販売額は、近年減少傾向にあります。
- ・ 中心市街地の利用者へのアンケート調査（商圈実態調査）では、柏駅周辺商業施設での買物頻度は「増えた」が 17.9%に対し「減った」が 35.3%となっています。利用が減った割合は 20 代女性が最も多くなっています。
- ・ 休日の歩行者通行量は、5 年連続で減少しています。
- ・ 平成 27 年 3 月には常磐線が品川駅まで延伸し、平成 29 年には沼南エリアに日本最大規模の新たなショッピングセンターがオープン予定であり、今後も買い物・レジャー等の分散化が一層進むことが予測されます。
- ・ これらの状況がこのまま進むと、「来街者等の減少⇒店舗の撤退⇒駅周辺の魅力減少⇒まちの衰退」や「柏市のイメージダウン⇒人口減⇒税収減・財政難⇒都市の財政破綻」という悪化シナリオが進むことが想定されます。
- ・ このような将来の課題に対し、地権者や事業者、商店主、行政等関係者の連絡調整が少なく、対策を立て、活力を維持・向上させていく体制が弱いです。

②施策の実現によって目指す 5 年後の市の姿（施策の目標）

市民や民間企業、教育・研究機関、行政が協力しながらまちづくりに取り組み、多くの人が訪れ、居住者も増え、街中に長く滞在したくなる魅力あふれる空間が作られています。

③進捗を測る指標（達成効果目標）

		定義	測定方法	基準値	目指す方向性
1	○◇				
2	△☆				

④施策実現のため、重点的に投資する取組

1) 新たな魅力を持った中心市街地の実現

目的	来街者数の増加、滞在時間の延長など、まちの活力の維持・向上を図る	ため、
主な取組	多くの人が訪れ、安心して快適に過ごすことができるまちづくりを進め	ます。
重点事業 (実現手段)	①エリアマネジメントの推進 ②人に優しいまちへの基盤整備 ③中心市街地における再開発事業の推進	

⑤その他の取組

- | |
|---|
| 1) 交通結節機能の強化
2) 柏の個性づくりの推進
3) 人が集まる場の創出 |
|---|

⑥重点事業の概要

1) エリアマネジメントの推進

担当課	中心市街地整備課					
事業内容	市民や民間企業、教育・研究機関、行政などの各関係者が将来の中心市街地のあり方について共通認識を持ち、協力しながら魅力 ため、あるまちをつくる 公・民・学の連携体制を構築し、安全で快適な都市環境の形成、集客力の向上、地域経済の活性化及び生活文化の創造等の活動を行います。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	体制の構築・強化のための連携会議	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)		
	関係者連携会議	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)
	組織支援	連携事業	連携事業	連携事業	連携事業	連携事業
	歩行者交通量等調査分析	最低年2回 (平日・休日)	最低年2回 (平日・休日)	最低年2回 (平日・休日)	最低年2回 (平日・休日)	最低年2回 (平日・休日)
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	100百万円	20百万円	20百万円	20百万円	20百万円	20百万円
備考						

2) 人に優しいまちへの基盤整備

担当課	中心市街地整備課					
事業内容	歩きやすい空間のネットワーク化を実現する 駅周辺道路の整備及び歩行者優先化を推進し					ため、 ます。
5年間の ロードマ ップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	東口の歩行者 最優先の空間 形成	東口駅前 広場・ハウ ディーモ ール・サン サン通り	東口駅前 広場・ハウ ディーモ ール・サン サン通り			
	西口あさひふ れあい通り高質 化整備	あさひふ れあい通 り	あさひふ れあい通 り			
	歩行者系都市 計画道路の整 備	中通り線・ 南通り線・ 旧水戸街 道	中通り線	元町通り 線・中通り 線	元町通り 線・中通り 線	元町通り 線・中通り 線
	国道6号線プロ ジェクト会議の 開催	年1回	年1回	年1回		
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	700百万円	300百万円	100百万円	100百万円	100百万円	100百万円
備考						

3) 中心市街地における再開発事業の推進

担当課	中心市街地整備課					
事業内容	中心市街地における交流人口増加や定住促進を図り、将来の活力 をより効果的に維持・向上させる 商業・オフィス・医療・文化などの様々な機能の集積や、エネル ギーマネジメントなど環境にも配慮した持続可能なまちを目指し					ため、 ます。
5年間の ロードマ ップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	西口北地区組 合会議	月1回 (年12回)	月2回 (年24回)	月2回 (年24回)	月2回 (年24回)	月2回 (年24回)
	西口北地区組 合支援	支援	支援	支援	支援	支援
	現地事務所	設置	事業支援	事業支援	事業支援	事業支援
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
備考						

①当該施策の現状分析（課題把握）

- ・つくばエクスプレス沿線では、沿線各市で土地区画整理事業による宅地開発が進められています。このため他地区との差別化を図り、地域の資源や特色を活かした、魅力のある新たなまちづくりが求められています。
- ・一方、中心市街地の衰退の懸念なども抱えていて、柏市全体として活力が減衰するおそれがあります。
- ・北部地域における新しいまちづくりの推進により、定住人口の増加や企業立地を誘導し、住民どうしの交流や住民と企業による地域活動を育み、地域のにぎわいを創出し、市全域の活性化につなげることが期待できます。

②施策の実現によって目指す5年後の市の姿（施策の目標）

つくばエクスプレスの2駅（柏の葉キャンパス、柏たなか）を中心に、それぞれの特徴が活かされたまちづくりが進められ、多くの人々が「住みたい、働きたい」と思える魅力あるまちになっています。

柏の葉キャンパス駅周辺は柏市北部の都市拠点として、公・民・学による先進的な学術研究都市を目指し、また、職住近接などのまちづくりが進められています。

柏たなか駅周辺は、既存の農業と新しい都市の共存を目指した“農あるまちづくり”をテーマに、豊かな緑地環境のある風景を活かした落ち着いたあるまちづくりが進められています。

③進捗を測る指標（達成効果目標）

		定義	測定方法	基準値	目指す方向性
1	○◇				
2	△☆				

④施策実現のため、重点的に投資する取組

1) 北部地域のブランド化

目的	定住人口及び就業人口の増加を図り、住民と企業による地域の交流や活動を育み、暮らしの質と地域の活力を持続・向上させるため、
主な取組	公・民・学の連携を活かしたまちづくりを進め、地域の特色を生み出し情報発信を行い、北部地域のブランド化を推進します。
重点事業 (実現手段)	①エリアマネジメントの推進 ②柏の葉ブランド確立の推進

⑤その他の取組

1) 計画的なまちづくりの推進

⑥重点事業の概要

1) エリアマネジメントの推進

担当課	企画調整課					
事業内容	地域の住民や企業が主体となって、地域の安全や快適性の向上、健康で楽しく暮らし続けられるコミュニティを形成するUDCKを中心とするエリアマネジメントに取り組み、自律的な地域主体のまちづくりを推進し					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	エリアマネジメントの推進	実施	実施	実施	実施	実施
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
備考						

2) 柏の葉ブランド確立の推進

担当課	北部整備課					
事業内容	企業に選ばれ、住みたい・働きたいと思うまちをつくるため質の高い都市空間を醸成し、柏の葉が「先端企業が集まるまち」、「職住近接が実現できるまち」というイメージを確立し					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	ブランド力向上検討	行動計画策定	実行	実行	実行	実行
	空間デザイン部会	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回
	パンフレット作成	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	35百万円	7百万円	7百万円	7百万円	7百万円	7百万円
備考						

①当該施策の現状分析（課題把握）

- ・市南部は、柏駅や柏の葉キャンパス駅周辺のような利便性や人を呼び込む機能に乏しい。
- ・1970年代以降に開発された沿線駅を中心に広がる住宅街や、公共交通機関があまり発達していない地域の多くで高齢化が進んでいます。より高齢化が進むことで、地域が衰退し、快適性や利便性といったまちの機能が損なわれることも推測されます。
- ・中心市街地の衰退の懸念なども抱え、市全体の活力が減衰するおそれがあります。
- ・手賀沼という自然あふれる地域資源があり、また農とのつながりもあることから、この手賀沼を活用した取組を進めることで、来街者の増加も期待でき、南部地域及び市全域の活性化につながることを期待できます。
- ・また、平成29年には旧沼南地域に大型ショッピングセンターの開業も予定されており、相乗効果も期待できます。

②施策の実現によって目指す5年後の市の姿（施策の目標）

手賀沼の自然環境を活かした、ランニング、サイクリング、ヨット等のスポーツ・レジャー拠点としての環境が整っており、周辺の農業等を活かした体験農園や収穫体験なども活発に行われ、子どもから高齢者まで幅広い世代が多く訪れ楽しんでいきます。

③進捗を測る指標（達成効果目標）

		定義	測定方法	基準値	目指す方向性
1	○◇				
2	△☆				

④施策実現のため、重点的に投資する取組

1) 手賀沼を活用した交流の推進

目的	交流人口を増やすことによる地域の活性化を図るため、
主な取組	地域資源である手賀沼を本市のレジャー等の観光スポットに活用します。
重点事業 (実現手段)	①スポーツ、自然、体験をキーワードにした観光の推進

⑤その他の取組

※無し

⑥重点事業の概要

1) スポーツ、自然、体験をキーワードにした観光の推進

担当課	商工振興課					
事業内容	手賀沼周辺における交流人口を増やす 手賀沼周辺の特長や魅力をスポーツ・自然・体験等のイベントや 観光により活かせる環境の整備と情報発信を行い					ため、 ます。
5年間の ロードマ ップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	環境整備	年間2件 程度	年間2件 程度	年間2件 程度	年間2件 程度	年間2件 程度
	プロモーション 活動	月1回 (年12回)	月1回 (年12回)	月1回 (年12回)	月1回 (年12回)	月1回 (年12回)
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	70百万円	14百万円	14百万円	14百万円	14百万円	14百万円
備考	施設整備 1000万円、試作開発費 300万円、プロモーション費 100万円					

①当該施策の現状分析（課題把握）

- ・市の人口は平成 32 年から 37 年にかけてピークを迎え、その後は減少に転じるものと予測されており、さらに年少人口と生産年齢人口が減少する一方、老年人口は増加が続き、市税収入の減少や社会保障費の増加が懸念されます。
- ・このようなことから、様々な財源確保策の推進が必要となっており、その一つとして産業を活性化することにより、地域の活力を高め雇用を生むことなどが考えられます。
- ・しかし、市の産業全体の状況としては生産額が減少し、事業所数や従業員数も減少傾向（平成 24 年度までのデータ）にあるため、結果として法人市民税や固定資産税の減収につながっています。
- ・この状況の改善として生産力を高めることが重要であり、そのためにも事業の選択と集中や、地域の活性化に効果的な業種・分野の絞込みなどの戦略的な取組が必要です。

②施策の実現によって目指す 5 年後の市の姿（施策の目標）

地域の資源を活用した戦略的な取組が進められ、企業の立地先として柏市が注目を浴び、また産業間の連携によって新たな商品・サービスが開発されるなど、産業全体が活性化しはじめています。

③進捗を測る指標（達成効果目標）

		定義	測定方法	基準値	目指す方向性
1	○◇				
2	△☆				

④施策実現のため、重点的に投資する取組

1) 戦略的な企業誘致活動

目的	地域の生産力の発展・強化や雇用の拡大を図る	ため、
主な取組	戦略的な企業誘致を行い	ます。
重点事業 (実現手段)	①付加価値の高い産業の誘致	

2) 産業支援の推進

目的	企業の生産力向上を図る	ため、
主な取組	効果的・効率的な産業支援活動を行い	ます。
重点事業 (実現手段)	①産業間連携コーディネーターの育成	

⑤その他の取組

1) きめ細やかな就業支援

⑥重点事業の概要

1) 付加価値の高い産業の誘致

担当課	商工振興課					
事業内容	研究所やハイテク工場などの税収面や雇用面などで優位な企業を誘致する 地域の強み等を活かした戦略的な誘致活動を行い					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	誘致活動実施	月2回 (年24回)	月2回 (年24回)	月2回 (年24回)	月2回 (年24回)	月2回 (年24回)
	土地の情報や企業の進出動向の調査・分析	随時	随時	随時	随時	随時
	関係機関との情報交換会の開催	年2回開催	年2回開催	年2回開催	年2回開催	年2回開催
	企業誘致展示会の出展	年1回出展	年1回出展	年1回出展	年1回出展	年1回出展
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	110百万円	30百万円	20百万円	20百万円	20百万円	20百万円
備考						

2) 産業間連携コーディネーターの育成

担当課	商工振興課					
事業内容	産業間の連携を進め新たな商品・サービスを生むなど、企業の生産力向上を図る 企業や個人をマッチングし、新規サービス・事業を生む人材を育成し					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	人材育成研修 (各分野の基礎知識など)	月1回 (年12回)	月1回 (年12回)	月1回 (年12回)	月1回 (年12回)	月1回 (年12回)
	他機関との連携 (人脈づくり)	適宜研修や活動に参加	適宜研修や活動に参加	適宜研修や活動に参加	適宜研修や活動に参加	適宜研修や活動に参加
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	35百万円	7百万円	7百万円	7百万円	7百万円	7百万円
備考						

①当該施策の現状分析（課題把握）

- ・柏市は都市近郊にありながら、米をはじめ様々な野菜や果物が盛んに生産され、特に、かぶ、ねぎ、ほうれん草は全国でも有数の産地となっています。
- ・しかし、全国的な農業の状況と同様、農業者の後継者不足に伴い、農家数及び農業就業人口の減少が続いており、農業者の高齢化及び担い手不足が深刻化しています。
- ・さらに、農産物の取引価格が低落の傾向にあり、燃料や農業資材価格の高騰等の影響もあって農業販売額の低迷と農業収入の減少が続いており、農業経営が厳しくなっています。
- ・農地の有効活用と保全が適正に行われてない耕作放棄地が増加し、農業用水施設の水路や排水設備等の老朽化も進んでいます。
- ・将来にわたり持続可能な農業を目指すには、農業の経営力・生産力を高め、農業交流拠点等を通じて市民に地域農業に対して目を向けてもらい理解を得ながら、地域で支える魅力ある農業づくりを進める必要があります。

②施策の実現によって目指す5年後の市の姿（施策の目標）

地域の特徴を活かした個性豊かな農業が営まれ、農家の経営力・生産力が高まっています。これにより、農業が社会的・所得的に魅力ある地場産業となり、「新たな地域農業のモデル」として柏市の貴重な産業・資源となっています。

③進捗を測る指標（達成効果目標）

		定義	測定方法	基準値	目指す方向性
1	○◇				
2	△☆				

④施策実現のため、重点的に投資する取組

1) 農業経営力の強化

目的	将来にわたり持続可能な農業を目指す	ため、
主な取組	様々な支援を通して経営力のある農業者を育成し	ます。
重点事業 (実現手段)	①農産物の高付加価値化の支援	

2) 農業の魅力向上

目的	柏市の農業・農産物等が消費者や流通関係者等から支持され、地産地消と消費拡大を図る	ため、
主な取組	柏農産物を購入する機会の拡大・充実化や地域農産物に対する関心を高める取組を行い	ます。
重点事業 (実現手段)	①農を活かした交流拠点の充実	

⑤その他の取組

1) 農地の生産性の向上

⑥重点事業の概要

1) 農産物の高付加価値化の支援

担当課	農政課					
事業内容	農産物の高付加価値化により、農家の経営力・生産力を高めるため、 商工業との連携や農業の6次産業化の取組を支援し					ため、 ます。
5年間の ロードマ ップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	農商工連携の検討会・新商品開発研究	検討会 年6回	検討会 年6回	研究会 年3回	商品化	商品化
	6次産業化研修会	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
	新商品開発支援補助(調査・分析等)	随時	随時	随時	随時	随時
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	700万円	100万円	150万円	150万円	150万円	150万円
備考						

2) 農を活かした交流拠点の充実

担当課	農政課					
事業内容	生産者・農産物と消費者の信頼関係構築と交流機会を消費拡大につなぎ、農業の活性化を図る 市内交流拠点である道の駅しょうなんの機能強化やあけぼの山農業公園の農業振興に向けた活用等を行い					ため、 ます。
5年間の ロードマ ップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	道の駅再整備の検討会	年6回	年6回	年6回	年3回	年3回
	道の駅再整備	基本・実施設計・用地買収・造成	施設整備	施設整備	リニューアル	—
	あけぼの山農業公園検討会	年6回	年6回	年6回	年6回	年6回
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	65,900万円	35,120万円	30,220万円	220万円	170万円	170万円
備考						

(4)地域のちから

本市には文化、スポーツをはじめ様々な魅力があり、まちづくりを実践してきた魅力的な市民が大勢います。まちの発展を支える原動力であり、本市の財産である市民が主体的・積極的に活動することや柏の魅力を再認識すること等を通じて「地域のちから」を発揮するまちづくりを展開します。

※この導入部分は、総合計画審議会での委員の皆様の意見等を参考にしながら、分野別の方向性や優先順位の考え方を盛り込む予定です。

図表2 施策体系(地域のちから)

施策	取組	事業
1.活発に活動するコミュニティの実現	地域コミュニティづくり活動の支援	地域活動人材の発掘・育成
		自主的なまちづくり活動の支援
		コミュニティエリアの見直し
		町会等加入の促進
		町会や地域団体の連携推進
2.誇りの持てる柏市文化の醸成	柏らしさあふれる文化の創出	音楽の街かしわの創出(吹奏楽を活かしたまちづくり)
		柏市ゆかりの文化資源の維持・活用
	文化活動の活性化	市民の文化活動の支援
		文化活動拠点の整備及び市所蔵美術品の活用
		歴史や文化財の保存・活用
3.スポーツを愛するまちの実現	地域での健康・体力づくりの推進	トップアスリート講習会の開催
		生涯スポーツきっかけづくり事業
		小学校巡回運動教室や高齢者向けの健康講座
	支えるスポーツの推進	スポーツ指導者の育成
		ボランティア活動の促進
スポーツをする場の確保	民間施設連携の推進	
スポーツ施設の適切な運営管理	学校施設開放事業の推進	
ホームタウンチームとの連携	民間ノウハウを活かしたサービスの提供	
4.地域や社会の課題に対応した生涯学習の推進	地域課題に対応した学習支援	生涯学習活動の情報発信
	図書館機能の強化	生涯学習成果の仕組みづくり
5.多様な市民活動の活性化	世代に応じた市民活動人材の育成・意識向上	本館・分館機能の見直し
		課題解決支援型サービスの提供
		本を通じた交流事業の推進
		地域・郷土資料の充実化
6.男女が対等で利益を享受し責任を担う社会の実現	男女共同参画意識の向上	適切な資料管理
		啓発講座・イベントの開催
		公益活動への支援
7.世代、国籍を超えた連携・交流の推進	市民活動団体の連携・協力推進	市民活動団体のネットワーク作り
	市民活動拠点の活用	柏市民交流センターの運営管理と活用
	自立的・持続可能な活動の推進	地域によるコミュニティ経営の推進
8.市民が主体の情報共有	わかりやすく身近に感じる情報の発信	ワーク・ライフ・バランスに関する事業者の啓発
		男女の人権侵害の予防とケア
		若年男性の地域参加の促進
7.世代、国籍を超えた連携・交流の推進	教育機関と連携したまちづくり	生徒に対する男女共同参画社会の啓発
	国際化への対応	大学や学生との連携促進
8.市民が主体の情報共有	わかりやすく身近に感じる情報の発信	在住外国人への支援
		国際理解の推進
		ニーズに即した地域情報の提供
		市民参加型広報・広聴の仕組み作り
		市民による地域情報発信の支援
情報化の進展に合わせた広報手法の見直し		
個人ニーズに即した情報提供		

①当該施策の現状分析（課題把握）

- ・防災・防犯、子育て、高齢者福祉など、増大・多様化する地域課題に対応するためには、行政だけではなく、地域のことをよく知る市民が主体的に地域の身近な課題解決に取り組むことが必要となっています。
- ・市内の地域組織(町会・自治会・区等及びふるさと協議会など)は良好な地域社会を維持形成するために長年活動をしています。また、会員加入率の減少や担い手の不足などにより、地域力の低下が懸念されています。

②施策の実現によって目指す5年後の市の姿（施策の目標）

地域組織の多くが、地域自治を進めるための役割を理解し、様々な活動が行われています。町会やふるさと協議会への加入率が維持され、まちづくりの担い手となる人材がいて、積極的に活動に取り組んでいます。また、より自発的・自立的な活動をしている地域団体があって、地域のまちづくりを担う先進モデル団体も複数存在しています。

③進捗を測る指標（達成効果目標）

		定義	測定方法	基準値	目指す方向性
1	○◇				
2	△☆				

④施策実現のため、重点的に投資する取組

1) 地域コミュニティづくり活動の支援

目的	様々な地域活動が活発に行われるようにする	ため、
主な取組	地域で積極的に活動する人を側面から支援し	ます。
重点事業 (実現手段)	①地域活動人材の発掘・育成 ②自主的なまちづくり活動の支援	

⑤その他の取組

※無し

⑥重点事業の概要

1) 地域活動人材の発掘・育成

担当課	地域支援課, 生涯学習課, 中央公民館					
事業内容	地域活動の担い手を確保し、また、地域や組織の活性化のため、人材の発掘・育成を行い					ため、 ます。
5年間の ロードマ ップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	人材育成講座	実施	実施	実施	実施	実施
	活動参加のきっかけづくり	実行委員会支援	実行委員会支援	見直し	(左記による)	(左記による)
	青少年センター(北部拠点)における事業展開	実施	実施	実施	実施	実施
	図書館・中央公民館(中央拠点)における事業展開	実施	実施	実施	実施	実施
	沼南公民館(南部拠点)における事業展開	実施	実施	実施	実施	実施
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	1,685千円	337千円	337千円	337千円	337千円	337千円
備考						

2) 自主的なまちづくり活動の支援

担当課	地域支援課					
事業内容	自主的に活発に活動する地域組織が市民生活を一層支援していくようにする 地域課題に積極的に取り組む地域組織を支援し					ため、 ます。
5年間の ロードマ ップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	+10補助金交付	25件交付	25件交付	見直し	(左記による)	(左記による)
	ふるさと協議会への補助金交付	交付	交付	見直し	(左記による)	(左記による)
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	141,320千円	28,264千円	28,264千円	28,264千円	28,264千円	28,264千円
備考						

①当該施策の現状分析（課題把握）

- ・柏市には市立柏高校吹奏楽部をはじめとした全国からみてもレベルの高い吹奏楽活動や、市民による活発な文化活動、800点を超える市所蔵の美術品、1,000地点を超える発掘調査の成果や40の指定・登録文化財、県内随一の10万点の市史資料といった豊かな文化資源があります。
- ・しかし、市内外の人にとって、柏市に対する文化的イメージは低くなっています。
- ・市民が誇れる柏市文化として発展させるためには、市がもつ文化の強みや特徴を十分に活かし、市内外に対して積極的にアピールする必要があります

②施策の実現によって目指す5年後の市の姿（施策の目標）

市民の芸術文化活動や取組が活発に行われており、「柏の文化といえば〇〇である」という吹奏楽をはじめとした柏市の特色あふれる文化、地域の歴史・文化財の理解関心が高まっていて、文化の薫る魅力ある「まちづくり」が市民一体となって進められています。

③進捗を測る指標（達成効果目標）

		定義	測定方法	基準値	目指す方向性
1	○◇				
2	△☆				

④施策実現のため、重点的に投資する取組

1) 柏らしさあふれる文化の創出

目的	柏の特色あふれる文化活動が市内外に認知・評価されるようにするため、
主な取組	吹奏楽をはじめとした音楽活動や柏市ゆかりの芸術家、美術作品などの市内の文化資源を活用して新たな柏市文化を創造します。
重点事業 (実現手段)	①音楽の街かしわの創出（吹奏楽を活かしたまちづくり）

⑤その他の取組

- 1) 文化活動の活性化
- 2) 歴史や文化財の保存・活用

⑥重点事業の概要

1) 音楽の街かしの創出（吹奏楽を活かしたまちづくり）

担当課	文化課					
事業内容	柏市が市内外から「音楽、吹奏楽の街」として認識され、様々な文化活動にも良い影響を与え、まちの活性化につなげるため、市立柏高校をはじめとする吹奏楽を活用した事業を広く開催し、情報発信を行います。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	かしわ塾の開催	年1回(2日間)	年1回(2日間)	年1回(2日間)	年1回(2日間)	年1回(2日間)
	かしわ市民芸術祭(かしわ市民芸術祭実行委員会と共催)の開催	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
	音楽月間等の開催	年1回(約1週間)	年1回(約1ヶ月)	年1回(約1ヶ月)	年1回(約1ヶ月)	年1回(約1ヶ月)
	市内公共ホール等を活用した音楽イベント補助		年1回(約20団体)	年1回(約20団体)	年1回(約20団体)	年1回(約20団体)
	財団立ち上げ補助	年1回(立ち上げ)	年1回(運営補助)	年1回(運営補助)	年1回(運営補助)	年1回(運営補助)
	市内音楽情報収集及び発信	通年	通年	通年	通年	通年
	大人向け音楽ワークショップの開催		年1回	年1回	年1回	年1回
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	24,750千円	1,910千円	5,710千円	5,710千円	5,710千円	5,710千円
備考						

①当該施策の現状分析（課題把握）

- ・Jリーグの「柏レイソル」をはじめ、バスケットボールや陸上などのスポーツチームが多数あり、流通経済大学附属柏高校や柏日体高校など全国レベルのスポーツ大会で活躍する高校も存在していて、スポーツの様々な地域資源が豊富なまちです。
- ・市民スポーツとしても、手賀沼エコマラソンや各種市民大会等のスポーツイベントも複数開催されており、スポーツに熱心な市民も多くなっています。
- ・しかし、柏市民のスポーツ実施率（週1回以上スポーツを実施する割合）は55.8%となっていて、文部科学省が目標とする65%の実施率を下回っている状況があります。

②施策の実現によって目指す5年後の市の姿（施策の目標）

誰もがスポーツを身近に楽しみ、趣味や生きがいとして生活が充実し、市民のスポーツ実施率（週1回以上スポーツを実施する割合）が向上していて、様々なスポーツを通じ、人や地域がつながる活気のあるまちとなっています。

③進捗を測る指標（達成効果目標）

		定義	測定方法	基準値	目指す方向性
1	○◇				
2	△☆				

④施策実現のため、重点的に投資する取組

1) 地域での健康・体力づくりの推進

目的	市民の体力向上・健康増進・スポーツ技術の向上を図る	ため、
主な取組	世代やスポーツ習慣の有無などを考慮した取組を行い	ます。
重点事業 (実現手段)	①トップアスリート講習会の開催 ②スポーツをするきっかけ作り	

⑤その他の取組

- 1) 支えるスポーツの推進
- 2) スポーツをする場の確保
- 3) スポーツ施設の適切な運営管理
- 4) ホームタウンチームとの連携

⑥重点事業の概要

1) トップアスリート講習会の開催

担当課	スポーツ課					
事業内容	市民のスポーツに対する関心を高め、実施するきっかけとなるよう、また、技術の向上を図るため、 トップアスリートによる講演会やスポーツ教室を実施します。					
5年間の ロードマ ップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	講演会・教室	年3回	年3回	年3回	年3回	年3回
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	750万円	150万円	150万円	150万円	150万円	150万円
備考						

2) 生涯スポーツきっかけづくり事業

担当課	スポーツ課					
事業内容	市民が、身近で気軽にスポーツを楽しめるきっかけを作るため、 幼児と保護者から高齢者まで、各世代にあった運動、スポーツ体 験教室や講習会等を実施し、誰もがスポーツに触れ合う機会を創 出し ます。					
5年間の ロードマ ップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	情報提供	通年	通年	通年	通年	通年
	講演・教室	年1回～	年1回～	年1回～	年1回～	年1回～
事業費	5か年計	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	250万円	50万円	50万円	50万円	50万円	50万円
備考						